

ダリア切り花の品質に及ぼす糖の給液処理の影響

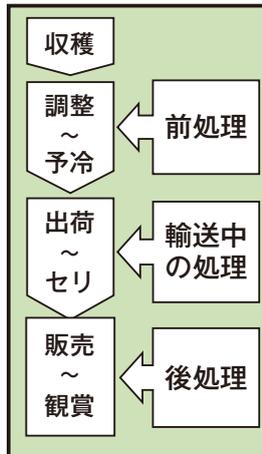


図1 収穫後の作業イメージ

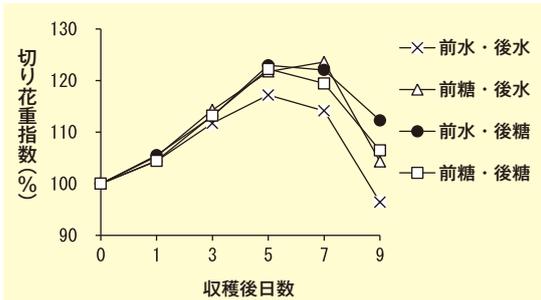


図2 輸送前後の給液処理が切り花重に及ぼす影響

注1) 前、後は前処理および後処理のこと。水は水道水を、糖は2%スクロース+抗菌剤+硫酸アルミニウムの糖処理液を給液処理したことを示す。
 注2) 切り花重指数(%)：(調査日の切り花重÷収穫日の切り花重)×100で示した。
 注3) 凡例は、前処理液・後処理液を示す。

表 輸送前後の給液処理が花卉および葉での葉害や品質保持期間に及ぼす影響

処理 ²⁾	葉害発生率(%)		品質保持期間(日)
	花卉	葉	
前水・後水	0	0	8.0
前糖・後水	0	0	8.0
前水・後糖	0	0	8.2
前糖・後糖	0	0	8.4

2) 処理方法は図2に準じる。



写真 ダリア‘黒蝶’への給液処理の違いが収穫9日後の切り花品質に及ぼす影響

ダリアは近年栽培面積が増加している品目ですが、花持ちが悪いことが問題になっており、消費拡大のため花持ちを良くすることが望まれています。ここでは、生産者が出荷前に吸液させる前処理と生花店や消費者が購入後に吸液させる後処理の方法を検討しました(図1)。

水道水(以下、水)を対照に前後処理とも糖(スクロース)2%+抗菌剤(アモルデンFS-14D)50ppm+硫酸アルミニウム50ppmの糖処理液(以下、糖)の効果を検討しました。前処理として12℃で水または糖を21時間吸液させた後、切り花5本当たり200gのエコゼリーを切口に装着して5月の広島市場への輸送シミュレーションを行いました。その後、後処理として水または糖

を吸液させながら気温23℃、湿度60～70%、12時間日長条件で貯蔵しました。

その結果、収穫9日後では、前処理または後処理のいずれかで糖を吸液させると水処理よりも切り花重が保持されました(図2)。また、糖の給液は前処理よりも後処理で品質保持期間が若干長くなり、さらに、花色も美しくなることがわかりました(表、写真)。

今回使用した糖処理液は自分で調整することで市販の処理剤より割安に作るができます。なお、市販の処理剤でも同様の効果が期待されますので、消費者の皆様もご家庭で利用頂くと、美しいダリアをより長く楽しむことができます。

(品質管理担当 宮崎清宏 088-863-4916)